

構造分析に基づく読みと論理的文章形成

－高等学校国語科における試み－

M13EP001

石井 裕久

1. はじめに

文部科学省が示す「新しい学習指導要領の基本的な考え方」では、「近年の国内外の学力調査の結果などから、我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題がみられる。」と指摘した上で、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を学力の重要な要素としている。

高校生が直面する思考力・判断力・表現力を求められる場面の一つが入試小論文である。また、多くの生徒が進学を希望する大学においても、「高校時代に文章表現を学んだ経験の乏しい理系の大学初年次生も、大学に入学するや日常的に論理的文章を書くことを要求され、苦慮することになる。」(島田 2012)と、レポート等の執筆で同種の力を要求される。実習校の国語科教員に小論文指導を行った上での課題を尋ねたところ、①課題文や表、グラフ類、設問の文章を読み取れないという読解に関するもの、②要求されたことに答えるための知識が不足し、意見の根拠が弱かったり、論が深まらなかったりするという内容や知識に関するもの、③語彙が乏しく幼稚な表現しかできない、書き始めと終わりとでつじつまが合わない、要約の際に元の文章の構成を再編できず冗長になる等の表現や構成に関するもの、に集約された。

1 つ目の課題については、読解力を高める指導が必要である。2 つ目について、これまでも小論文指導の導入段階で「知らないことは書けない」と訴え、読書や新聞スクラップなどを課してきた。それらに加え、小論文を

書く体験を通して書けないことを実感させることは、ことばで伝える以上に効果があると考えられる。

今回取り上げるのは3つ目の課題である。小論文のような論理的文章を形成するには、多くの文章に触れて語彙や文章の書き方の知識を増やし、場にふさわしい言葉を選択したり、表現や修辞を工夫したりする訓練が必要である。構成については、「日本では時系列が、アメリカでは因果律が、それぞれの叙述の基本構造である」(渡辺 2004)との指摘が参考になる。渡辺はまた、「時系列では、それぞれの出来事が並べられる順番が重要である。(中略)しかしながら一連の出来事の中で、何が原因で何が結果なのかは書き手や語り手によって明確に特定されることはない。(中略)これに対して因果律では、結果として特定された出来事が最も重要である。時間軸を遡ってその結果に対する原因を探る過程で、一連の出来事はその結果への寄与によって序列がつけられ、結果には直接関係なしと判断された出来事は、語り全体から取り除かれる。時系列の構造は『物語』のジャンルに頻繁に見られ、因果律の構造は『論文』、特に科学的な論文に頻繁に使われる傾向がある。」と述べている。つまり、論理的文章においては、結論を最後に述べることの多い日本型のものから、先に結論を述べ、その根拠を続けていく欧米型のものへ転換していく必要がある。文章構成の型として参考になるのは「パラグラフ・ライティング」である。パラグラフ・ライティングとは、「まず中心文(言いたいこと)を書き、それから支持文(言いたいことの原因・具体

例・詳細な説明)を書き連ねていくもの。作文の書きかたというよりは、むしろ論理構成のやり方」(北川 2005)であり、「パラグラフ・ライティングの便利な点は、基本的な論理構成さえ身につけておけば、文章自体があまり上手でなくても、自分の言いたいことは確実に伝わるということ」(同)とあるように、書く型を持つことで、意見や考えを論理的に構成して伝えられるようになると期待される。

2. 実践研究の目的

今回の研究では、高等学校国語科の授業(現代文)で、構造分析に基づく読みと論理的な文章を書くことによって、思考力・判断力・表現力を高めさせることを目指す。構造分析に基づく読みについては、生徒が文章の構造の重要性に気づき、これに着目して読み進められるようにする。論理的な文章形成に関しては、小論文を書いたり分析したりする経験を通して、生徒に望ましい小論文の条件を考えさせ、高等学校卒業後に必要となる論理的な思考、判断、表現の技法を身につけさせる。

なお、一連の学びの流れは「文学的な作品や優れた論文なども、単に読むための鑑賞教材として扱われるのではなく、書き手は読み手にどうアプローチしているか(中略)分析され、これをモデルに学習者がオリジナルな文章を作る」(入部 2010)というアメリカの事例を参考にした。

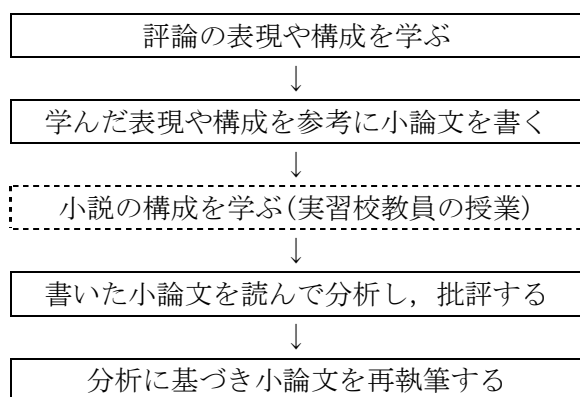


図 1 実践研究の全体像

3. 実践研究の概要

対象 山梨県立 A 高等学校第 2 学年 22 人

期間 平成 25 年 6 月～12 月(55 分×11 回)

経過

- ①6～7 月に、生徒が文章を書くための準備として、評論「日本人の『顔』」を読む授業を行った(55 分×6 回)。「何が」書かれているかに加え、表現・修辞や文章の論理構造に着目して「いかに」書かれているかを意識させた。その際、一方的な講義形式ではなく、生徒が考え、友人と相互に意見を述べる機会を多く持てるようにした。学習の前後に「評論を読むときに大事だと思うこと」を自由記述形式で尋ねた。
- ②小論文執筆の前段階で、「小論文を書くときに大事だと思うこと」を自由記述形式で尋ねた。
- ③7～8 月の夏季休業中の課題として、テーマ型小論文(テーマ:「平和」、字数:800 字以内)を執筆させた。
- ④8～9 月に、評論「この村が日本で一番」を、表現や構成に着目しながら読解した(55 分×4 回)。ワールド・カフェの手法を参考に、生徒が意見を交流させながら論理構造を考える活動を設定した。
- ⑤9～11 月は実習校の教員による小説『こころ』の授業であった。小説全体の語られ方や友人「K」の描写が「私」の視点からであることなど、構成に関する読み取りに力が入れていた。
- ⑥12 月に、生徒が執筆した小論文 4 編を取り上げて、望ましい小論文の条件を考えさせた(55 分×1 回)。ワールド・カフェの手法を用いた。
- ⑦⑥の学習後に、「小論文を書くときに大事だと思うこと」を自由記述形式で尋ねた。
- ⑧⑥の学習や 12 月の修学旅行(事前学習を含む)を踏まえて、家庭学習でテーマ型小論文(テーマ:「沖縄の平和」、字数:800 字以内)を執筆させた。

検証

- (1)①の評論文学習前後の意識の変化を考察する。
- (2)②と⑦で小論文学習前後の意識の変化を考察する。
- (3)③と⑧で書かれた小論文を比較考察する。

4. 実践研究の結果・考察

(1)読むことについて

①構造の重要性への気づき

評論学習の前後に、生徒に「評論を読むときに大事だと思うこと」を尋ねた。学習前は「筆者の主張を読み取る」や「繰り返し述べられることに注意する」など、内容に関する回答が多く見られた。学習後になると、「文章の構成に注意する」、「接続詞や指示語に注目する」、「強調されている箇所を意識する」などの表現や構成を意識した回答が増えた(表1)。

表 1 評論学習による生徒の意識の変容

学習前		→	学習後	
意見・主張	20		段落構造	20
自分の意見	9		接続詞	20
内容理解	8		意見・主張	15
段落構造	3		内容理解	4
接続詞	3		自分の意見	1

「頭括式などのまとめ方がわかって、筆者の主張の書いてある場所がわかるようになった。」との記述もあり、目的の一つが達成されたと言える。

これを踏まえ、次の評論の授業では、ワールド・カフェの手法を参考に、生徒がグループ内やグループ間で意見を交流させながら論理構造を考える言語活動(図 2)を設定した。「形式段落を意味段落に整理する」という問いに取り組みせたとこ、いずれのグループも的確な分析を行うことができた。

②読み手としての力量の確かさ

生徒が執筆した小論文 1 から 4 編を取り上げ、望ましい小論文の条件を考える授業を行った。分析対象とした 4 編は、段落数が少ない(2 段落)もの、段落数が多い(7 段落)もの、意見の根拠の信憑性に疑問がある(参院選候補者が原発を論点としなかった)もの、カギ括弧を多用している(15 回)もの、である。

授業にはワールド・カフェの手法を簡略化した活動(図 2)を取り入れ、生徒は個人、グループ、全体で「次の小論文を書くために、望ましい小論文の条件を考える」という課題に取り組んだ。その際、これまでの学習を踏まえて、表現や構成に着目するように補足した。グループ内、グループ間で意見を交流し、最後は各グループが挙げた望ましい小論文の

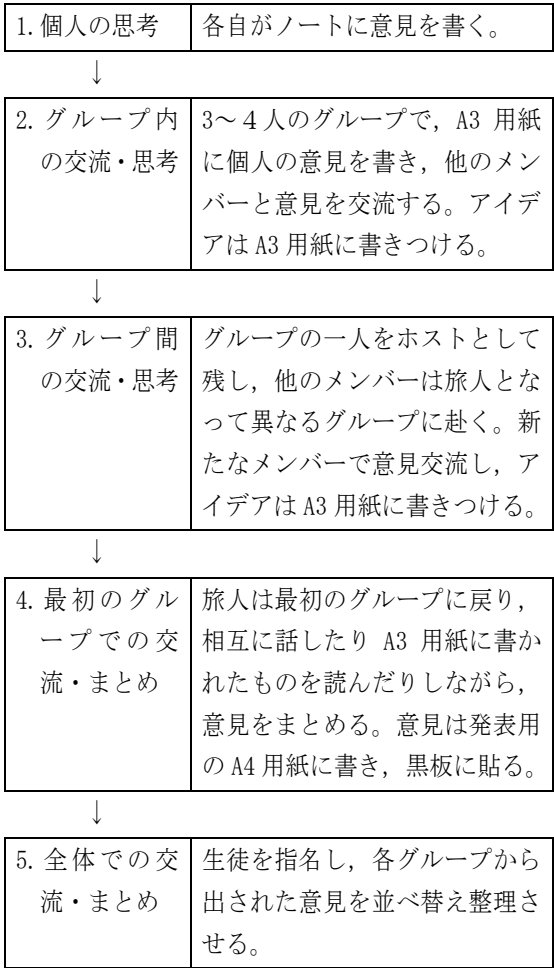


図 2 意見交流する言語活動

条件(3点×6グループ=計18点)を指名した1人の生徒に整理させたところ、内容・表現・構成に関するものをすべて指摘できていた(表2)。小論文の読み手としての生徒の力量は十分な水準にあると言える。

表2 生徒が挙げた望ましい小論文の条件

内容	物事をさまざまな視点から考える 意見に根拠を持たせる 具体例(体験)があるとよい
表現	本当に大事なものだけ「」を付す 同じ言葉や表現を使いすぎない 言葉の使い方に気をつける
構成	段落ごとの意味をまとめる 段落の構成を工夫する 題名と結論を結びつける

段落構成については、「起承転結がよい」という意見と「序論・本論・結論がよい」という意見が出された。それぞれの理由を説明させた上で、前者は文芸(漢詩)の型で、読者の意表を突くための技巧であるため、意見や主張を分かりやすく伝える小論文には不向きであると解説した(「起承転結の“転”は、話の流れを直線的にするのが望ましいレポートや小論文には合わない。(中略)意見文・説明文・議論文を書く場面においては、起承転結はほぼ“誤り”である」(渡辺 2013))。振り返りの時間を持てなかったため、①書く題材に関する知識を得ること、②日ごろからことばを意識して使いこなすこと、③頭括式で書くこと、を強調したプリントを配布した。

(2)書くことについて

①構成の重要性の認識

小論文の執筆前と望ましい小論文の条件を考える授業の後に、「小論文を書くときに大事だと思うこと」を尋ねた。執筆前は「自分の意見(主張)を持つ」、「段落構成を工夫する」、「体験談などの具体例を挙げて述べる」などが多かった。学習後は全員が「段落構成の工

夫」を挙げ、「内容や結論と題名を一貫させる」、「句読点やカギ括弧を適切に使う」、「具体例を用いる」などが続いた(表3)。グループでの話し合い活動を行い全体で意見交流したので、回答の幅が狭まったが、構成の重要性が認識された結果を得られた。

表3 小論文学習による生徒の意識の変容

学習前		→	学習後	
意見・主張	15		段落構成	22
段落構成	9		題名・テーマ	19
具体例	8		句読点・「」	16
題名・テーマ	6		具体例	14
句読点・「」	1		意見・主張	3

②伝え方の重要性の認識

「読みやすいように書くことも大事。」との記述からは、自分の意見を「いかに」相手に伝えるかという方向に考えが進んでいることがうかがえた。友人の小論文を読んだ、読者としての経験が生かされていると考えられる。

(3)小論文1と小論文2との比較

①段落数や文構造の精選

小論文1と2とを比較してみると、段落の数は小論文1で2～7とばらつきが見られたが、小論文2では3～5に集中した(図3)。これは評論の読解において段落がどういうまとまりかを学習したこと、小論文1の批評で小論文における望ましい段落構成について考えを深めたことの結果であると推測される。

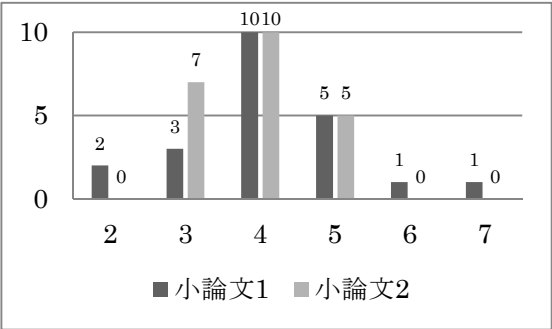


図3 段落の数の変化

文構造を比較すると、単文の比率が高まった(表4・図4)。これは小論文を読むことを経験した生徒たちが、読みやすい簡潔な文を書こうとした結果と考えられる。

表 4 文構造の比較(合計値)

	文の数	単文	単文以外
小論文 1	451	80	371
小論文 2	447	136	311

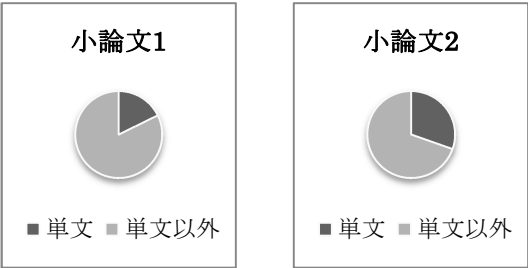


図 4 文構造の比較

②頭括式段落の微増

段落構造は、中心文が各形式段落の冒頭付近にあるものを頭括式、同じく末尾付近にあるものを尾括式、一文で一段落のものや中心文が複数あるものをその他と分類した。大きな変化はないが、頭括式の比率がやや高まった(表5・図5)。評論読解で頭括式を用いると読者に意図を伝えやすいと説明し、小論文の分析後に頭括式を勧めた結果と考えられる。

表 5 段落構造の比較(合計値)

	頭括式	尾括式	その他
小論文 1	22	56	9
小論文 2	25	54	7

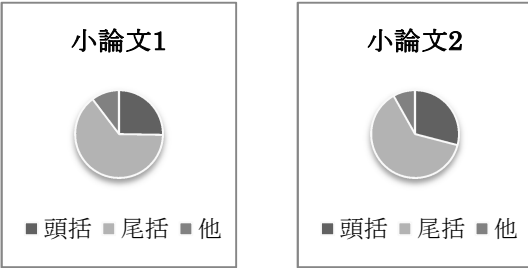


図 5 段落構造の比較

③題名の変化

小論文の分析で多くの生徒が題名の重要性を挙げた。小論文1では、「平和とは何か」が4編、「平和とは」が2編、「平和の意味」と「平和」が各1編あった。内容を集約した題名への変化を期待したが、小論文2でも「沖縄の平和」と「沖縄の平和」が計7編であった。その一方で、「どうして沖縄だけ」や「ひめゆりと平和」のような題名を付した者もいた。

④その他

総字数、文の数、一文あたりの字数の平均値で大きな違いは見受けられない(表6)。

表 6 字数および文の数の比較(平均値)

	総字数	文の数	字数/文
小論文 1	713.6	20.5	35.5
小論文 2	716.6	20.3	36.4

(4) 個々の生徒の変容

特徴的な3人の生徒の変容を見る(表7)。

表 7 生徒 a・b・c の小論文 1 と 2 の比較

	生徒 a		生徒 b		生徒 c	
	1	2	1	2	1	2
段落の数	2	2	3		1	4
	5	1		4	3	1
			1			
総字数	702	647	776	754	720	769
文の数	18	18	19	13	22	25
単文の数	2	3	4	3	5	10
字数/文	39.0	35.9	40.8	58.0	32.7	30.8

①段落数の集約と頭括式への移行(生徒 a)

生徒 a は小論文1を7段落構成で書いたが、小論文2では3段落に集約された。段落の構造は尾括式中心から頭括式中心に変化した(引用1)。

引用 1 生徒 a の記述

(小論文 1) 題名 「平和」

現在の日本は、戦争もなく平和な社会だと思います。しかし、その「平和」がいかに大切なのかを認識している人は一体どれくらいいるのでしょうか。「平和」が脅かされることがないぶん「平和」の尊さを見失っている人が多いのではないかと思います。

(小論文 2) 題名 「教育と平和」

これらのことから、教育というのは、人間の生死に関わってくる重要なものだと考えられる。私たちは今、昔のあやまちを踏まえ、平和な教育を受けることができている。しかし、世界中にはそういった教育を受けることができない人もたくさんいる。私たちは自分達のことだけでなく、世界中に目を向け、平和な社会を築く努力をしていくことが必要なのではないか。(後略)

②尾括式への移行と長文化(生徒 b)

生徒 b は段落構造が頭括式から尾括式に変化した。一文あたりの字数も 40.8 字から 58.0 字と大幅に増加し、複雑でわかりにくい文が増えてしまった。本人の振り返りを見ると「文章の表現についても考えるようになった。」とあり、構造よりも表現を意識していたようである。

③頭括式への移行と文の簡潔化(生徒 c)

生徒 c は、段落数は増えたが尾括式から頭括式に変化し、一文あたりの字数は 32.7 字から 30.8 字に微減した。文の構造として単文が 5 から 10 へと倍増していることもあり、全体として簡潔でわかりやすくなっている。根拠の妥当性など内容面に課題は残るが、構成に関しては学習の成果を確認できる(引用 2)。

引用 2 生徒 c の記述

(小論文 1) 題名 「平和を目指して」

歴史は、書物や報道からしか得ることは出来ない。だから、本当のことが何なのかわからず、一方的な主張するだけになってしまうのだ。主張し合うだけでなく、難しいことではあるが話し合いをする。そして、解決しようという意識が必要だと思う。私には、現在の政府にそのような意識が感じられない。隣国同士で対立することは、決して世の中が平和であるとは言えない。もう少し日本国民が日本という国に興味を持ち、政治に関わろうという意識があれば、世の中が変わっていくのではないかと私は思った。

(小論文 2) 題名 「アメリカとの関係」

私が今回、沖縄の平和について取り上げたい問題は、普天間基地移設問題だ。なぜこの問題にしたかというと、大きな国際問題となっているからだ。普天間基地は市街地の中心にある。そのため、航空機による事故の危険が感じられ沖縄県民は不安な毎日を送っている。だから、日本政府は海辺である辺野古に、基地を移設しようと考えている。この方が沖縄県民にとって安全であると考えたからだ。(後略)

(5)その他に得られたもの

①ワールド・カフェの有用性の確認

対象クラスは、国語の学習に対しては受動的な姿勢が見られる生徒集団であるが、ワールド・カフェを取り入れることで普段よりも活発な議論が展開されていた。生徒の感想にも「自分だけで考えると限界があるが、他の人の意見を聞き入れることによって世界が広がっていくと思った。」等の記述が見られ、学習者の主体的な活動を引き出す手法としてワールド・カフェの有効性を確認できた。

授業観察者からは「各グループの考えた小論文の条件を代表の生徒が整理する場面での

クラス全体の集中力がすばらしかった。」とのご意見をいただいた。授業者としては無自覚な点であったので非常に有益な指摘であった。

②知識と体験による思考の深まり

小論文1の分析を終えた時点での生徒の振り返りに「多くの知識を持っていれば、書くときに少し楽だと思った。」との記述が見られた。沖縄への修学旅行を経て書いた小論文2では、内容に具体性が増し、それによって考えに深まりが見受けられた。これは事前学習等での知識と修学旅行での体験との相乗効果と思われる。予備知識の有無が体験の深まりに影響すると身をもって知った生徒に、知識の重要性の認識が芽生え、読書などの行動につながる可能性がある。

(6)今後の課題

①優れた題材の準備

生徒が小論文を執筆する際にそのまま利用できるような、論理構造に優れた題材を用いる。

②他教科との関連

パラグラフの概念は論理的な思考全般に適用できる汎用性の高いものである。生徒が英語で学んでいる「パラグラフ・リーディング」と関連させていく。

③生徒の相互支援

生徒が書いた小論文を相互に読みあうことで、表現や論理構造を洗練し、推敲する活動を行う。

④表現や修辞についての学習

生徒たちが「言葉の使い方に気をつける」と指摘した段階に止まった。類語辞典等を活用して最適な語句を選んで表現するなど、具体的方策を考え、実践する。

5. おわりに

論理構造に着目した評論の読解では、これまで構造に無自覚だった生徒にその重要性を伝えることができた。生徒は小論文を執筆したことを通して、理論や知識と体験とを関連させ、自分の考えを相手に効果的に伝える技法を習得することができた。また、他者の書いた小論文を読む双方向の活動によって、自らの小論文の表現や論理構造が洗練された。

6. 引用・参考文献

- ・有元秀文（2012）まともな日本語を教えない勘違いだらけの国語教育 合同出版
- ・入部明子（2010）平成22年度国語力向上指導者養成研修 講師資料 独立行政法人教員研修センター 27
- ・板坂元（1971）日本人の論理構造 講談社
- ・香取一昭, 大川恒（2009）ワールド・カフェをやろう！ 日本経済新聞出版社
- ・加藤恭子（2010）言葉でたたかう技術 日本的美質と雄弁力 文藝春秋
- ・北川達夫（2005）図解フィンランド・メソッド入門 経済界 56
- ・小阪修平（2005）考える技法 小論文で頭がやわらかくなる PHP研究所
- ・森山卓郎（2013）日本語の〈書き〉方 岩波書店
- ・三森ゆりか（2013）大学生・社会人のための言語技術トレーニング 大修館書店
- ・佐藤信夫（1992）レトリック感覚 講談社
- ・島田康行（2012）「書ける」大学生に育てる A0入試現場からの提言 大修館書店 4
- ・島田康行（2013a）「書かない高校の国語の授業 書かせる大学のA0入試」 学研・進学情報 2013年2月号 2-5
- ・島田康行（2013b）「高校・大学の双方で育てたい『書く力』」 第18回東北大学高等教育フォーラム 新時代の大学教育を考える[10]報告書 「書く力」を伸ばす 一円滑な高大接続のためにー 9-33

- ・渡辺哲司（2010）「書くのが苦手」をみきわめる 大学新入生の文章表現力向上をめざして 学術出版会
- ・渡辺哲司（2013）大学への文章学 コミュニケーション手段としてのレポート・小論文 学術出版会 55
- ・渡辺雅子（2004）納得の構造 日米初等教育に見る思考表現のスタイル 東洋館出版社 12-13
- ・山形大学基盤教育院（2010）スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る！ 山形大学出版会
- ・山本麻子（2003）ことばを鍛えるイギリス

の学校 国語教育で何ができるか 岩波書店

- ・吉岡友治（2013）いい文章には型がある PHP 研究所

- ・文部科学省 WEB サイト「新学習指導要領・生きる力 第1章 言語活動の充実に関する基本的考え方 （1）学習指導要領における言語活動の充実 ア 新しい学習指導要領の基本的な考え方」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1322412.htm

7. 資料 小論文の比較

小論文①「平和」											
通し番号	段落数	総字数	字数/文	文の構造			段落の構造				
				文の数	単文	他	頭括	尾括	他		
生徒a	1	4	735	38.7	19	3	16	1	4		
	2	4	550	28.9	19	9	10		4		
	3	5	718	35.9	20	9	11	1	4		
	4	5	684	34.2	20	5	15	3	1	1	
	5	2	645	32.3	20	1	19		1	1	
	6	2	770	33.5	23	4	19	1	1		
	7	5	662	26.5	25	5	20	1	4		
	8	4	675	42.2	16		16		3	1	
	9	4	787	35.8	22	3	19		3	1	
	10	4	701	38.9	18	5	13		4		
	11	7	702	39.0	18	2	16	2	5		
	12	3	784	29.0	27	4	23	1	2		
	13	5	712	28.5	25	4	21	1	2	1	
	14	4	750	32.6	23	3	20	1	3		
	15	3	747	37.4	20	2	18	1	1	1	
	生徒b	16	3	671	44.7	15	1	14		3	
		17	4	776	40.8	19	4	15	3		1
	生徒c	18	4	720	32.7	22	5	17	1	3	
		19	6	755	31.5	24	2	22		6	
		20	4	789	43.8	18	1	17	2	2	
		21	4	687	31.2	22	6	16	1	1	2
		22	5	680	42.5	16	2	14	2	2	1
合計											
平均				4.1	713.6	35.5	20.5				

小論文②「沖縄の平和」								
段落数	総字数	字数/文	文の構造			段落の構造		
			文の数	単文	他	頭括	尾括	他
4	696	34.8	20	3	17	1	3	
3	639	29.0	22	14	8		3	
5	754	41.9	18	3	15		3	2
5	704	46.9	15	2	13	2	3	
4	731	40.6	18	2	16	1	3	
3	703	35.2	20	6	14		3	
5	739	27.4	27	12	15	1	4	
3	685	40.3	17	7	10		2	1
3	721	37.9	19	6	13	1	2	
4	684	40.2	17	5	12	1	3	
3	647	35.9	18	3	15	2	1	
4	755	26.0	29	8	21	1	3	
4	759	38.0	20	4	16	1	2	1
3	734	35.0	21	5	16	2	1	
4	753	30.1	25	9	16	1	2	1
3	642	32.1	20	9	11	1	2	
4	754	58.0	13	3	10		4	
5	769	30.8	25	10	15	4	1	
4	711	33.9	21	7	14		3	1
4	746	33.9	22	9	13	2	2	
4	732	34.9	21	6	15	1	3	
5	708	37.3	19	3	16	3	1	1
			447	136	311	25	54	7
3.9	716.6	36.4	20.3					